

## 第5学年1組 総合的な学習の時間学習指導案

指導者 井手口 純子

### 1. 単元名 「わたしたちの大蔵川」 ～大蔵川 大研究～

### 2. 単元について

#### 児童の実態（児童観）

- 本学年の児童は、第4学年の総合的な学習の時間に「大蔵にしかない素敵な人」をテーマに学習を行い、大蔵の素敵な人とかかわりや、協同的な学習を通して、大蔵には素敵な人がたくさんいること、大蔵の「人・もの・こと・自然」と自分の生活とが密接にかかわっていることに気付くことができた。
- 第5学年1学期の理科「生命のつながり」では、小さな水生生物やそれを食べている魚の存在を知り、大蔵川の水生物や魚に興味をもつことができた。大蔵川とかかわりを通して、「大蔵川が好き」「大蔵川はホタルも生息する魅力ある川」と感じている。しかし、自分の生活とかかわりや地域の人にとって大蔵川が果たす役割を考えるまでは至っていない。
- 学び方の面では、身近な事象に「なぜ」「おかしいな」と疑問をもち、その疑問を積極的に解決しようとする姿は十分とは言えない。また、内容を整理し、比べたり、関係付けたりするなどして考えを深めていくことについても十分とは言えない。

#### 教材の価値（教材観）

- 本単元では、校区に流れる大蔵川を取り扱う。大蔵川は、川に入って遊べ、魚や植物などが多く生息するなど、児童にとって魅力的な川である。また、学校の前を流れている川であるため、問題解決の過程において川に行き行って繰り返し調査することができ、体験を通じた学びができる。繰り返しかかわることで川に対する考えが変わっていくことが期待できる。目の前を流れる川が違って見えるようになるだろう。また、大蔵川の調査や大蔵川を守る人の思いを調べる活動を通して、大蔵川を守るために自分たちができることについて考え、進んで行動できるようにするとともに、地域を愛する心をもつことができるようにすることがねらいである。
- また、国語科で学習した話し合いの仕方やインタビューの仕方等の言語活用能力や、道徳や特別活動と総合的な学習の時間とを互いに補完し合うものとして位置付けることにより、総合的な学習の時間の学びや各教科等の理解が相互に深まりそれぞれの学習がより充実していくことをねらっている。

#### 方策・方法（方法観）

- 第一次では、日々の生活で話題になっている「ホタル」をテーマに「大蔵川」への興味・関心を高めさせるようにする。近隣の小学校では、ホタルを飼育するために様々な取組や努力をしていることを知らせる。同じくホタルを観賞することができる大蔵では、ホタルの飼育を一切していない。その違いに視点を置き、ホタルを飼育して増やしていくのではなく、大蔵の地域の人々はホタルが生息する大蔵川を汚さないための努力をしていることに気付かせる。さらに、川を汚さないための活動の一つである「大蔵川クリーン作戦」に参加することを通して、大蔵川を取り巻く環境への興味関心を高めさせていく。児童が自ら課題を見出し、探究していこうという課題意識をもつようにする。
- 第二次では、各教科・領域での言語活動を生かし、手段・場・方法を工夫した追究活動を効果的に位置付ける。大蔵の魅力について課題別グループをつくり一人一人が追究しようとする課題を明確にしていく。水質調査の結果や専門家や地域の方の話について、意見を出し合い検討することで、大蔵川に対する自分の見方や考えを一層明らかにしていき、次の活動へとつなげていくことを目指す。
- 第三次では、全校児童や地域の方に大蔵川の魅力や自分の思いがどうすれば伝わるかという視点で話し合い、「大蔵川検定」を開催することで、地域に対する愛着の気持ちを高めるようにする。その後、大蔵川の魅力を活かすために、「自分にできることは何か」と考え実践しようとする態度を育て第二単元につなげたい。  
各教科・領域での言語活動と関連を図るとともに、学年で付けたい力を明確にした評価規準を設ける。また、国語科の学習を生かし、大蔵川をよりよいものにするためのアイデアを発信したり、実践したりする。これまでの学びや達成感、自己の変容や成長を味わい、一人一人はわずかな力でも実践に移すことこそ大切であることに気付かせる。そして、これからも地域の一員として大蔵川を「ふるさと川」としてかかわっていくことを感じることができるようになる。また、環境保全にも思いを向けさせたい。

### 3. 目指す子ども像

- 自分たちの生活と大蔵川の自然との関わりに関心をもち、「大蔵川のよさ」を調べて、見つけたよさを意欲的に発信しようとする子ども
- ◎ 問題解決や探究活動に主体的に取り組み、自分たちにできることを考え、実践しようとする子ども
- 発表する相手や目的を意識して伝え、それら大蔵川について、比較・関連・統合させながら考える子ども
- 自分の考えを結論付け、学習成果を実感するとともに、大蔵川に対して保護活動を実践しようとする子ども

#### 4. 単元目標と評価規準

	目 標	評 価 規 準
問題解決への 関心・意欲・態度	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 自分たちの生活と大蔵川の自然との関わりに関心を持ち、「大蔵川のよさ」を進んで調べ、解決しようとする。</li> <li>○ 大蔵川のよさを校内や地域の方などに、意欲的に発信しようとする。</li> </ul>	<p>ア 自分たちの生活と大蔵川の自然との関わりに関心を持ち、「大蔵川のよさ」を進んで調べ、解決しようとしている。 (行動観察・ワークシート)</p> <p>イ 大蔵川のよさを校内や地域の方などに、意欲的に発信しようとしている。 (行動観察・ワークシート)</p>
学び方や 問題解決の力	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 自ら見付けた課題について、追究する方法を考えたり、効果的に情報を集め、整理・分析したり、まとめ方や発表の仕方などを工夫したりしながら、課題解決や探究活動に主体的に取り組むことができる。</li> <li>○ 地域の方との交流や大蔵川に対する思いを聞く活動を通して、自分たちにできることは何かを考え、実践しようとする目的意識をもつことができる。</li> </ul>	<p>ア 自ら見付けた課題について、追究する方法を考えたり、効果的に情報を集め、整理・分析したり、まとめ方や発表の仕方などを工夫したりしながら、課題解決や探究活動に主体的に取り組むことができている。 (発言内容・行動観察)</p> <p>イ 地域の方との交流や大蔵川に対する思いを聞く活動を通して、自分たちにできることは何かを考え、実践しようとする目的意識をもつことができている。 (発言分析・行動観察)</p>
考える力 ・表現力	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 発表する相手や目的を意識して、伝えたいことを自分の言葉で伝えることができる。</li> <li>○ 大蔵川に生息する生物や植物など大蔵川の環境について、調べて分かったことを話し合い、思考ツールを使うことで、思考を深めていくことができる。</li> </ul>	<p>ア 「大蔵川の魅力」を発表する活動では、発表する相手や目的を意識して、伝えたいことを自分の言葉で伝えることができている。 (発言分析・行動観察)</p> <p>イ 調べて分かったことを話し合い、大蔵川に生息する生物や植物など大蔵川の環境について、比較・関連・統合させながら、思考を深めていくことができている。 (資料・行動観察)</p>
自分への 気付きと 生き方	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 課題に対する自分の考えを結論付け、学習成果を自己評価できる。</li> <li>○ 大蔵川を自分たちの川として意識し、愛される大蔵川を自分も大切にしようとする保護活動を実践しようとするすることができる。</li> </ul>	<p>ア 課題に対する自分の考えを結論付け、学習成果を自己評価することができている。 (発言内容・行動観察)</p> <p>イ 大蔵川を「ふるさとの川」として意識し、愛される大蔵川を自分も大切にしようとする自然環境保護活動を実践しようとしている。 (ワークシート・行動観察)</p>

## 5. 学習指導計画（総時数44時間）

### 第一次 大蔵川を知ろう。（10）

- 1 「ホタル」を通して、大蔵川に興味・関心をもつ。
  - (1) 「大蔵川」からイメージすることを図や文にまとめる。 ①
  - (2) ホタルを見に行ったり、見に行った友だちの話を聞いたりした中で気付いたことを話し合う。 ①
  - (3) 近隣小学校のホタルの飼育と大蔵地区のホタル生育の違いを話し合う。 ②
  - (4) 地域の方に大蔵川やホタルのことについて話を聞く。 ①
  - (5) 大蔵川の魅力や「大蔵川清掃活動」について話し合う。 ①



#### 学習課題①

ホタルを守るために、大蔵川をきれいに掃除しよう！

- 2 大蔵川クリーン作戦をする。
  - (1) タカミヤマリバー環境保護財団出前授業 ①
  - (2) 「大蔵川清掃活動」に取り組む。 ②
  - (3) 大蔵川清掃活動をして気付いたことや問題点を整理し課題を見付ける。 ①



#### 学習課題②

ホタル以外にも大蔵川には、生き物がいると思うからもっと調べたい。（魚・水生生物・植物・鳥など）

### 第二次 もっと大蔵川の魅力について調べよう（24）

- 1 大蔵川の生き物を調べよう。
  - (1) 大蔵川の生き物を調べるための計画を立てよう。 ①
  - (2) 大蔵川へ行って、生き物を探そう。 ②
  - (3) 大蔵川の生き物についてまとめよう。 ①
  - (4) もっと詳しく調べるための手立てを考えよう。 ①
  - (5) 川の専門家の方の話を聞こう。 ①
- 2 大蔵川の水質を調べよう。
  - (1) 大蔵川へ行って、川の専門家の方と一緒に生き物や指標生物を調べよう。 ③
  - (2) 生き物だけではなく、大蔵川的环境にも目を向けよう。 ①
- 3 大蔵川的环境を調べよう。
  - (1) 大蔵川へ行って石や流木、それらの周りに住む生き物について調べよう。 ②
  - (2) 大蔵川的环境について、地域の方に話を聞こう。 ①
- 4 大蔵に住む人にとっての大蔵川はどんな存在なのだろうか。
  - (1) 地域の方にインタビューをしたり、アンケートを取ったりしよう。 ②
  - (2) 自分にとっても大蔵川はどんな存在なのか考えよう。 ①

5 もっと調べたいことをグループに分かれて調べよう。

(1) グループごとに調べる課題と計画を立てよう。①

(2) 課題別に調べよう。⑤

《予想される課題別グループ》

【川の中の生き物について】

- ・魚
- ・水生生物
- ・絶滅危惧種の生き物

【川と人との関わりについて】

- ・大蔵に住む魅力の一つ、大蔵川
- ・やすらぎ、憩いの場。散歩。
- ・川の環境を守るために努力している人々

【川の周りの生き物について】

- ・植物
- ・昆虫
- ・鳥
- ・絶滅危惧種の生き物

【川の環境について】

- ・上流、下流の水質
- ・指標生物
- ・石や流木
- ・川の環境を守るための活動

※方法…アンケートを作成したり、電話でインタビューをしたり、fax で質問に答えてもらったり、図鑑や資料を集めて調べたりする。

6 各グループで調べたことを整理分析しよう。①

7 グループごとに報告会を開こう。①



学習課題③

「大蔵川の魅力」をもっと多くの人に知ってもらうために、大蔵川検定を開こう。

第三次 「大蔵川の魅力」について調べたことをもっと多くの人に発信しよう (10)

1 「大蔵川の魅力」について調べたことをまとめ発信する。

- (1) 「大蔵川検定」を開くための計画（実施方法・宣伝方法）を立てる。②
- (2) 「大蔵川検定」の準備（他学年や市民センターへの働きかけ）をする。①
- (3) 「大蔵川検定」の問題内容について、各グループで調べたことをもとに、自分の考えを整理・分析する。①
- (4) 「大蔵川検定」の問題を作る。【本時1/2】②
- (5) 「大蔵川検定」の準備をする。①
- (6) 「大蔵川検定」を実施する。②
- (7) 「大蔵川検定」を振り返り、第二単元の学習問題につなげる。①



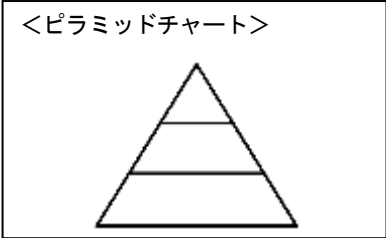
第二単元学習問題

大蔵川の魅力を輝かせ未来につなげるためのプランを考え、実践しよう。

(1) 主眼

- 「大蔵川の魅力」を整理・分析し、友達との交流活動を通して、大蔵川の大切さや自分とのかかわりについて考えることができるようにする。

(2) 展開

主な学習活動	支援・指導上の留意点（評価規準・評価方法）	他教科等との関連
1. 前時の振り返りを行い、本時のめあてを確認する。	○ 本時の学習のめあてを確認するために、学びの足あとを振り返り、本時の学習の見通しをもたせる。	
めあて 「大蔵川検定」の問題の内容を話し合おう。		
2. 「大蔵川検定」の問題を考えるための視点を確認する。  3. 「大蔵川検定」の問題を話し合う。  (課題別グループ) 大蔵川の魚 大蔵川の植物 大蔵川の水質 大蔵川のホタル 大蔵川的环境・様子 川を守る会や地域の人	○ 大蔵川の魅力を全校児童や地域の人に知ってもらうためには、検定の内容を吟味する必要があることに気付かせる。 <b>【「大蔵川検定」の問題を考えるための視点】</b> ・検定を受ける人は、大蔵の地域の人や学校のみならず ・知ってもらい、伝えたいという「自分たちの思い」が伝えられる内容か ・他の地域ではない「大蔵らしさ」を伝えられる内容か ・時間内で解くための各グループごとに選ぶ問題数→各グループ2問程度  ○ 大蔵川の魅力を整理するために、グループごとに KJ 法とピラミッドチャートを活用して話し合わせる。その際、「大蔵川検定」の問題を考えるための視点を意識しながら話し合わせるために、チャートの余白に選んだ理由を記入させる。 ○ 大蔵川をとりまく環境や地域の人々の思いなどを比較・関連させながら大蔵川の魅力について自分の考えやグループの考えを明確にして、ピラミッドチャートに取り組むようにさせる。  <div style="text-align: center;">                     &lt;ピラミッドチャート&gt;   </div> ○ 友達の考えを自分の考えと比べたり、協働で整理・分析したりして意見を出し合い検討する。 ※ グループ内での話し合いでは、順番に意見を出し合うことで、意見が出にくい児童でも自分の意見を発表できるようにする。  <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <b>【学び方や問題解決の力】</b>                      効果的に情報を整理・分析したり、まとめ方や発表の仕方などを工夫したりしながら、課題解決や探究活動に主体的に取り組むことができる。 (発言内容・行動観察)                 </div>	
4. グループで考えをまとめ、全体に発表する。  5. 本時の学習の振り返りをし、次時へつなげる。	○ グループで話し合った結果を報告させ、「大蔵川検定」をより良いものにするために、問題点や改善点を出し合わせる。その際、低・高学年児童や地域の方等の相手に応じて初級・中級・上級の問題を作ることの必要性に気付けるように声かけをする。  ○ 次時では、相手意識をより鮮明にして問題の難易度をつけるなどの改善点を踏まえて、「大蔵川検定」の問題を決定することを伝え、次時への意欲づけとする。	5 年国語（9 月） 「明日をつくるわたしたち」 【身に付けた知恵や技】 ・収集した知識や情報を関連付け、互いの立場や意図をはっきりさせて話し合う。

